



▲ Eco-Worksで一番の地域密着イベント・筍掘り。採れたての筍で作った若竹汁も人気。



▲ 大学生が地域の子供たちに自然に触れる機会を提供できるのはとても意義のあること。

## 大学と共催する筍掘りは 地域の方々にも毎年大好評

Eco-Worksの年間活動には、地域の方々と一緒に整備活動を行う2つの大きなイベントがあります。ともにキャンパス内の保存緑地で行われる「春の筍掘り」(4月)と「秋の一斉間伐」(10月)がそれ。竹林を適度な密度に戻し拡大を防止するため、さらには良好な植生景観を作り出すための重要な作業です。特に春の筍掘りは、開催回数を重ねるごとに一般の参加者数も増えており、現在に至っては500人近くにもものぼるほど大盛況。「そんなに筍あるの?」と思いますか?ご心配なく!それだけ大勢の方が一斉に掘っても一人当たり2、3本の筍をお持ち帰りいただけます。当日は採れたて新鮮な筍を使った手作りのすまし汁「若竹汁」が参加者全員にふるまわれています。おみやげの筍と合わせて大変好評で、現在では季節行事として地域の方々に着実に根付いているようです。

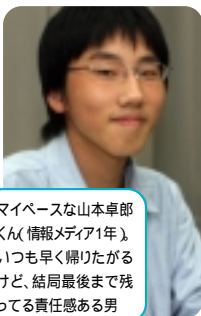
一方、10月に開催される「秋の一斉間伐」は地域の方々と一緒に竹の間伐を行うイベント。「筍掘り」と比べると地味なイベントですが、緑地の整備活動を通じて、子供たちを始めとした地域の方々と学生が交流するということも重要な目的の一つなんです(米山裕紀くん)。そこで行われているバームクーヘン作りも大変人気があり、切った竹に生地を塗りつけて目の前で焼くバームクーヘンに子供たちも興味津々!

伐採された竹は、Eco-Worksによって立派な竹炭へと生まれ変わります。これを行うのが炭焼き合宿。様々な大学の学生が合宿などに利用している八王子大学セミナーハウスには、先輩たちによって作られた手作りのドラム缶を使用した炭焼き窯があり、その場所

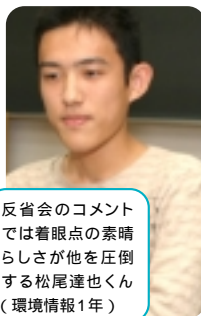
で春と夏の2回、3泊4日をかけて竹炭を作ります。「日中は炭材を窯に詰めたり、焚き付け用の薪を集めるためにたっぷりと汗を流し、夜は夜で、メンバーが夜通し交代で窯の番をしなくちゃいけないんです」(市川誠之くん)

そんな苦勞の甲斐あって、彼らの作る竹炭は、MI-TECH横浜祭ではかなりの人気商品に。抗菌、消臭、防虫の高い効果で最近注目を浴びている竹炭ですが、それが学祭ならではの破格値(300g入りで200円ほど)とあって、地域の方々の中にはリピーターも多いそうです。「横浜祭では竹炭を作る工程で採れる“竹酢液”も販売しています。樹木の栄養吸収を助けたり、防虫効果が高かったりとさまざまな効果があり、こちらも相場と比べてかなり安いのでは」(森下元美子さん)。彼らの汗の結晶である竹炭、竹酢液で得たお金は、Eco-Worksの大切な活動費になっているそうです。会費をとくに徴収せずに運営しているだけに、ここでの売り上げはとても重要なのです。

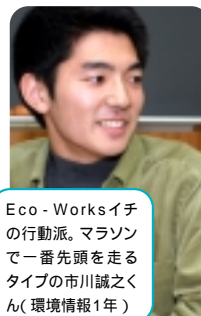
最後に、部長の永島さんに今後の同会の将来展望について聞いていただきました。「やっていることが大変なので、まず何より継続していくことが一番大事。その上で自然保護に対する勉強会などもっと積極的にやっていたらいいですね。ここでの活動を活かし、将来、森林インストラクターなどの道に進む人が出てきたら最高です」環境情報学部にもふさわしいサークルと言えばこれ以上の存在はなく、21世紀のエコキャンパスを標榜する横浜キャンパスならではの団体とも言えるEco-Works。今後も充実した活動を行い、サークルとしてますます発展してくれることを期待しましょう。



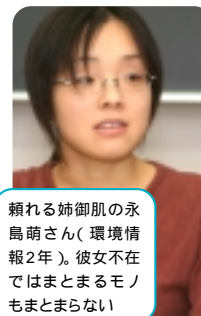
マイベスな山本卓郎くん(情報メディア1年)。いつも早く帰りがたがるけど、結局最後まで残ってる責任感ある男



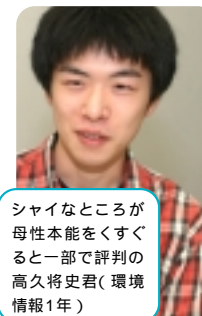
反省会のコメントでは着眼点の素晴らしさが他を圧倒する松尾達也くん(環境情報1年)



Eco-Worksイチの行動派。マラソンで一番先頭を走るタイプの市川誠之くん(環境情報1年)



頼れる姉御肌の永島萌さん(環境情報2年)。彼女不在ではまとまるモノもまとまらない



シャイなところが母性本能をくすぐると一部で評判の高久将史君(環境情報1年)